



Brush up Program
for professional



Kansai University of
International
Studies

関西国際大学大学院

2024 年度履修証明プログラム

特別支援教育コーディネーター養成コース

募 集 要 項



履修証明制度とは

履修証明制度とは、学校教育法第105条及び学校教育法施行規則第164条の規定に基づき、大学が教育や研究に加えてより積極的な社会貢献として、主として社会人向けに体系的な学習プログラムを開設し、その修了者に対して、法に基づく履修証明書を交付するものです。

履修証明プログラムとは

本認定制度は、大学・大学院・短期大学・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを「職業実践力育成プログラム」(BP)として文部科学大臣が認定するものです。

本学の履修証明プログラムを受講するメリット

1. 特別支援教育と発達障がい支援の実際について、系統的に学ぶことができます。
2. 修了時に、関西国際大学大学院が認定する「特別支援教育コーディネーター修了証明書」(履修証明書)が交付されます。
3. 本プログラムを修了した方が、本学の大学院(人間行動学研究科 臨床教育学専攻)に進学した場合は、受講した大学院授業の単位が「入学前習得済み単位」として認定されます。
4. 「みんなの特別支援教育」「就学前の特別支援教育」に全回出席した方で、特別支援教育士(S.E.N.S)の資格を持つ方には、一般財団法人特別支援教育士資格認定協会が認定する資格更新ポイントが付与されます。

I. 履修手続き等

コース名	特別支援教育コーディネーター養成コース
開設期間／ キャンパス	2024 年 4 月～2025 年 3 月(1 年間) 関西国際大学尼崎キャンパス
趣旨・内容	本課程は、「地域・学校園における特別支援教育の体制づくり及び専門的指導」のための政策・計画立案能力、組織化、及び地域課題解決への具体的対応力を身に付けることにより、地域・学校園における特別支援教育をコーディネートできる人材の育成や、その能力の向上を図ることを目的とします。
募集定員	20 名程度
対象者	特別支援教育や発達障がいに関心のあるすべての方
出願資格	次の(1)～(5)のいずれかに該当する者とします。 (1)大学を卒業した者 (2)外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者 (3)文部科学大臣の指定した者 (4)本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者 (5)その他本大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

コース修了 認定要件	当コースを構成する講義から 120 時間以上履修し、認定試験に合格すること。 (ただし、各講義の開講日数の 3 分の 2 以上の出席を要する)												
修了時に 付与される 資格等	関西国際大学大学院が認定する「特別支援教育コーディネーター修了証明書」(履修証明書)を交付します。また「みんなの特別支援教育」「就学前の特別支援教育」において、全回出席した方で、一般財団法人特別支援教育士資格認定協会の「特別支援教育士(S.E.N.S)」を持つ方には、資格更新のためのポイントを付与します。(3 クールごとに協会への申請承認後)												
出願書類	1. 履修証明プログラム受講申請書(本学所定のもの) 2. <u>写真 2枚</u> 縁なし・光沢仕上げのカラー写真、正面・上半身・脱帽、3 か月以内撮影のもの、タテ 4cm×ヨコ 3cm、裏面に鉛筆で氏名を記入し、1 枚は受講申請書に貼付、もう 1 枚はそのまま提出してください。												
出願手続	1. 出願方法 <郵送受付のみ> 2. 出願期間(厳守) 2024 年 1 月 29 日(月)～2024 年 3 月 8 日(金) 当日消印有効 3. 提出先(送付先住所) 〒661-0976 兵庫県尼崎市潮江 1 丁目 3 番 23 号 関西国際大学尼崎キャンパス 履修証明プログラム担当 TEL (06) 6496-4357 E-Mail: gakuji@kuins.ac.jp 4. 出願料および検定料は不要です。												
審査と許可	1. 審査は書類審査とし、必要に応じて面接あるいは履修資格の確認を行う場合があります。 2. 受講を許可された方に受講許可書を発行します。ただし、以下の場合には許可を取り消す場合があります。 (1) 各種規程に抵触することが判明した場合 (2) 所定の期日までに受講料の納付が確認できなかった場合 <審査結果発表> 審査結果は 3 月 22 日(金)までに、メールにて通知します。また、受講許可書は 3 月末日までに郵送いたします。(本人宛郵送) ※電話・FAX・メール・大学窓口への直接の問い合わせはご遠慮ください。												
出席・欠席	1. 各科目の開講日数の内、それぞれ 3 分の 2 以上の出席を要します。 2. 夜間講座「みんなの特別支援教育」「就学前の特別支援教育」については、クールごとに、S.E.N.S(※)保有者に対し、次のポイントを付与します。(全回出席の場合に限る) <S.E.N.S の資格更新ポイント付与数> <table><tr><th>科 目 名 称</th><th>春クール (6-7 月)</th><th>秋クール (10-12 月)</th><th>冬クール (1-2 月)</th></tr><tr><td>みんなの特別支援教育</td><td>5 回全出席で 2P</td><td>5 回全出席で 2P</td><td>5 回全出席で 2P</td></tr><tr><td>就学前の特別支援教育</td><td>4 回全出席で 2P</td><td>4 回全出席で 2P</td><td>4 回全出席で 2P</td></tr></table> ※ 特別支援教育士[S.E.N.S]は一般財団法人特別支援教育士資格認定協会による認定資格です。 詳細は協会 HP にてご確認ください。 【協会ホームページ】 http://www.sens.or.jp/about-sens-index/about-sens/	科 目 名 称	春クール (6-7 月)	秋クール (10-12 月)	冬クール (1-2 月)	みんなの特別支援教育	5 回全出席で 2P	5 回全出席で 2P	5 回全出席で 2P	就学前の特別支援教育	4 回全出席で 2P	4 回全出席で 2P	4 回全出席で 2P
科 目 名 称	春クール (6-7 月)	秋クール (10-12 月)	冬クール (1-2 月)										
みんなの特別支援教育	5 回全出席で 2P	5 回全出席で 2P	5 回全出席で 2P										
就学前の特別支援教育	4 回全出席で 2P	4 回全出席で 2P	4 回全出席で 2P										

Ⅱ. 開設科目

No.	区分	必修/選択	設定	科目名称	科目担当者	時間数
RST-001	夜間講座	必修	春・秋・冬 各 5 回	みんなの特別支援教育	関西国際大学大学院 教授 中尾繁樹	22.5h
RST-002		必修	春・秋・冬 各 4 回	就学前の特別支援教育	(調整中)	18h
RST-003	特トレ	必修	(土曜) 年 6 回	特別支援教育コーディネータートレーニング	複数専門家による輪講	15h
RST-004	大学院※	必修	春 水・6 限	特別支援教育特論	関西国際大学大学院 非常勤講師 花熊暁	30h
RST-005		必修	春 火・7 限	発達障害教育特別演習 I	関西国際大学大学院 教授 中尾繁樹	30h
RST-006		必修	秋 木・7 限	特別支援教育実践研究	関西国際大学大学院 教授 中尾繁樹	30h
RST-007		選択	秋 水・6 限	発達障害教育特論	関西国際大学大学院 非常勤講師 花熊暁	30h
RST-008		選択	春 火・6 限	学級経営特論	関西国際大学大学院 教授 中尾繁樹	30h

開講スケジュールは別途予定表をご確認ください。※大学院 [6限] 18:30～20:00 [7限]20:10～21:40

※授業は、キャンパスでの対面授業と遠隔授業(オンライン)との併用で行います。

遠隔授業(オンライン)は、主に Zoom 利用して行います。

Ⅲ. 費用(受講料) 次の3パターンから選択してください。

必修 (145.5 時間)	必修+選択 1 科目 (175.5 時間)	必修+選択 2 科目 (205.5 時間)	納付方法・時期
120,000 円	135,000 円	150,000 円	春と秋の二期に分けて半額ずつ納付してください。 ※大学から 4 月と 10 月に書類を本人宛に送付 →所定の期日までに納付してください。

- 【注意】
1. 「検定料」「登録料」は、本プログラムにおいてはこれを徴収いたしません。
 2. 本学大学院に在籍中の大学院生は受講料を免除します。
 3. 学期途中から選択科目を登録することはできません。
 4. 納入された「受講料」は原則、一切返却できません。

Ⅳ. その他

1. 本プログラムを修了し、本学大学院へ進学した場合は、入学前習得済み単位として単位を認定します。
2. 履修証明プログラム履修生への「通学証明書」「学割証」「成績証明書」等は発行いたしません。

V. 教育訓練給付金制度について

本講座は厚生労働省の教育訓練給付金制度『専門実践教育訓練給付金』の指定を受けております。

専門実践教育訓練給付金は、一定の条件を満たす雇用保険の一般被保険者等（在職者）又は一般被保険者等であったかた（離職者）が、厚生労働大臣が指定する専門実践教育訓練を受講している間、また、修了した場合、その受講のために本人が支払った教育訓練経費の 50%（年間上限 40 万円）がハローワークから支給される制度です。また、資格取得等をし、かつ訓練修了後 1 年以内に雇用保険の被保険者として雇用された場合は、受講費用の 20%（年間上限 16 万円）が追加で支給されます。詳しくは下記 URL の案内をご確認ください。

<https://www.mhlw.go.jp/content/001066317.pdf>

教育訓練給付金 専門教育訓練給付金の受講前手続きについて

受講する 1 ヶ月前までにハローワークでの手続きが必要です。

教育訓練給付金を受給するには、受講開始日の 1 ヶ月前までにお住まいの地域を管轄するハローワークで事前の申請手続きが必要です。教育訓練給付金を希望される場合は、ハローワークで受給資格の有無や支給要件の確認をしてください。下記を参考に手続きをしてください。

①受給資格の確認

受講開始日（教材初回発送予定日 2024 年 4 月 1 日）時点で、専門教育訓練給付金の支給対象であることをご確認ください。ハローワークで「支給要件照会」することで受給資格の有無が照会できます。

②「訓練前キャリアコンサルティング」受講・「ジョブ・カード」作成

受講開始前に訓練対応キャリアコンサルタントによる「訓練前キャリアコンサルティング」を受け、就業の目標、職業能力の開発・向上に関する事項を記載した「ジョブ・カード」を作成する必要があります。

③ハローワークに必要な書類の提出

ハローワークに受講前に提出が必要な書類があります。受講開始日の 1 ヶ月前までに書類の提出が必要となります。提出書類の詳細は下記 URL の案内をご確認ください。

<https://www.mhlw.go.jp/content/001066317.pdf>

受講中・受講修了後の手続きについて

①支給申請

受講から 6 ヶ月間（2024 年 9 月 30 日）が終わった翌日から 1 か月以内と、受講修了日（2025 年 3 月 25 日予定）の翌日から 1 か月以内にハローワークに支給申請の書類を提出し、申請手続きを行います。

なお、受講証明書または専門実践教育訓練修了書と領収書は本学で発行いたしますので、履修証明プログラム担当までお問い合わせください。

○専門実践教育訓練給付金について

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/kyouiku.html

○講座一覧はこちらから

<https://www.kyufu.mhlw.go.jp/kensaku/>

○教育訓練給付に係る相談・受給について（お住まいを管轄するハローワーク）

<https://www.mhlw.go.jp/kyujin/hwmap.html>

2024年度関西国際大学大学院 履修証明プログラム「特別支援教育コーディネーター養成コース」 予定表

春学期（4月～7月）、夏学期（8月～9月）

夜間講座	通年	必修	みんなの特別支援教育	中尾繁樹	平日夜間19:30～21:00（春・秋・冬 各5回）
		必修	就学前の特別支援教育	（調整中）	平日夜間19:00～20:30（春・秋・冬 各4回）
特トレ	通年	必修	特別支援教育コーディネータートレーニング		土曜1-2限目9:00～12:15（年6回）
大学院	春学期	必修	発達障害教育特別演習Ⅰ	中尾繁樹	火曜7限
		必修	特別支援教育特論	花熊 暁	水曜6限
		選択	学級経営特論	中尾繁樹	火曜6限

※夜間講座の日程は決まり次第お知らせします。
※講義日程、特トレの日程は予定です。変更になる場合があります。その際は別途ご案内します。

2024年4月						7月					
月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	1	2 大学院 選択18:30～20:00 必修20:10～21:40	3 大学院 選択18:30～20:00 必修18:30～20:00	4	5	6
8	9 大学院 選択18:30～20:00 必修20:10～21:40	10 大学院 選択18:30～20:00 必修18:30～20:00	11	12	13	8	9 大学院 選択18:30～20:00 必修20:10～21:40	10 大学院 選択18:30～20:00 必修18:30～20:00	11	12	13
15	16 大学院 選択18:30～20:00 必修20:10～21:40	17 大学院 選択18:30～20:00 必修18:30～20:00	18	19	20	15 海の日	16 大学院 選択18:30～20:00 必修20:10～21:40	17 大学院 選択18:30～20:00 必修18:30～20:00	18	19	20
22	23 大学院 選択18:30～20:00 必修20:10～21:40	24 大学院 選択18:30～20:00 必修18:30～20:00	25	26	27	22	23	24	25	26	27
29 昭和の日	30 大学院 選択18:30～20:00 必修20:10～21:40					29	30	31			
5月						8月					
月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土
		1 大学院 選択18:30～20:00 必修18:30～20:00	2	3 憲法記念日	4 みどりの日				1	2	3
6 振替休日	7 大学院 選択18:30～20:00 必修20:10～21:40	8 大学院 選択18:30～20:00 必修18:30～20:00	9	10	11	5	6	7	8 夏期閉門期間	9	10
13	14 大学院 選択18:30～20:00 必修20:10～21:40	15 大学院 選択18:30～20:00 必修18:30～20:00	16	17	18 特トレ① 9:00～12:15	12	13 夏期閉門期間	14 夏期閉門期間	15	16	17
20	21 大学院 選択18:30～20:00 必修20:10～21:40	22 大学院 選択18:30～20:00 必修18:30～20:00	23	24	25	19	20	21	22	23	24 特トレ③ 座談会 10:00～12:00
27	28 大学院 選択18:30～20:00 必修20:10～21:40	29 大学院 選択18:30～20:00 必修18:30～20:00	30	31	多田先生 1『ハラスメント①』 2『ハラスメント②』	26	27	28	29	30	31 5『座談会』
6月						9月					
月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土
					1	2	3	4	5	6	7
3	4 大学院 選択18:30～20:00 必修20:10～21:40	5 大学院 選択18:30～20:00 必修18:30～20:00	6	7	8 特トレ② 9:00～12:15	9	10	11	12	13	14
10	11 大学院 選択18:30～20:00 必修20:10～21:40	12 大学院 選択18:30～20:00 必修18:30～20:00	13	14	15	16 敬老の日	17	18	19	20	21
17	18 大学院 選択18:30～20:00 必修20:10～21:40	19 大学院 選択18:30～20:00 必修18:30～20:00	20	21	22	23 振替休日	24	25	26	27	28
24	25 大学院 選択18:30～20:00 必修20:10～21:40	26 大学院 選択18:30～20:00 必修18:30～20:00	27	28	29	30					

※秋学期（10月～1月）、冬学期（2月～3月）の予定は後日ご案内いたします。

授業概要（シラバス）

RST-001(必修)

授 業 概 要

1. 科目名	みんなの特別支援教育		
2. 時間数	22. 5時間	時期	夏・秋・冬 各5回
3. 必修・選択区分	必修		
4. 授業形態	講義		
5. 参考書	なし(講義毎にプリント配布)		
6. 担当者	人間行動学研究科 教授 中尾繁樹		
7. 概要	一人一人学び方の違う子どもたちについて広く、深く理解することで、すべての教育の中で適切な指導方法や具体的な指導内容が実践される。 それによって一次的な障害の改善だけでなく、保育や教育現場で見られるパニックや自己否定感等の二次的な問題を少しでも予防、軽減することができると考える。教員及び保育士等、子ども達にかかわる人々の専門性を高めるため、発達障害のある子どもの特徴や見立ておよび具体的な指導方法について学ぶ。		
8. 学習目標	1. 発達障害に関する基礎知識を修得する。 2. アセスメントについて理解する。 3. ケースに応じた具体的な支援方法や指導案が導き出せるようになる。		
9. 授業展開及び 授業内容	【夏期】テーマ:みんなの特別支援教育 1 配慮の必要な子どもを理解する 2 わかりやすい授業づくりを理解する 3 子どもの発達に即した体づくりを理解する 4 指導の個別化と個別支援を理解する 5 症例検討 【秋期】みんなの特別支援教育 1 子どもたちの体の軸づくりを考える 2 子どもの不器用さを理解する 3 不器用さと感覚遊びについて理解する 4 子どもの体づくりころほぐし 5 症例検討 【冬期】テーマ:専門的に指導について学ぶ 1 具体的診断と指導計画 2 不器用さと感覚運動指導 3 応用行動分析とは 4 動作法と心理学的アプローチ 5 症例検討		

RST-002(必修)

授 業 概 要

1. 科目名	就学前の特別支援教育		
2. 時間数	18時間	時期	夏・秋・冬 各 4 回
3. 必修・選択区分	必修		
4 授業形態	講義		
5. 参考書	なし(講義毎にプリント配布)		
6. 担当者	(調整中)		
7. 概要	日常の育児や保育場面で「何だか不思議」「これは個性？」と思うような子どもに出会った時、その特徴的な言動を、私たちはどのように理解すればよいのか。そしてその子ども達にどのようなかわりを組み立ててゆけば、彼等の思いに寄り添い発達を支えることができるのか。発達に特性を持つ子ども達のからだところの育ちの支援、保護者支援について学ぶ。		
8. 学習目標	1. 発達障害児の乳幼児期のスクリーニングと発達障害乳幼児に特有のこころとからだの発達に関する基礎知識を修得する。 2. 発達障害幼児が成長の課程においてつまづくポイントと様々な方法による支援方法を理解する。 3. 発達障害児の保護者、家族に対する支援ができるようになる 4. ケースに応じた具体的な支援方法や指導案が導き出せるようになる。		
9. 授業展開及び 授業内容	【夏期】(各回 90 分 19:00-20:30) 就学前の特別支援教育『保育者支援に必要な対人援助のスキルについて』 第1回 対人援助ってなに？ 第2回 保護者の気持ちに寄り添う 第3回 保護者の力を引き出す 第4回 お母さんから学ぶ 【秋期】(各回 90 分 19:00-20:30) 感覚運動遊び・言葉を育てる 第1回 感覚統合とは？ 第2回 感覚統合遊びの実際 第3回 ことばって何？ 第4回 ことばの育つ道筋 【冬期】(各回 90 分 19:00-20:30) 合理的配慮 第1回 「合理的配慮」って何 第2回 本人に伝わる配慮 第3回 おとなの発達障害 第4回 発達障害と虐待		

RST-003(必修)

授 業 概 要

1. 科目名	特別支援教育コーディネータートレーニング		
2. 時間数	15時間	時期	年6回 土曜日
3. 必修・選択区分	必修		
4. 授業形態	講義および演習(事例検討ワーク、双方向討論、座談会等)		
5. 参考書	なし(講義毎にプリント配布)		
6. 担当者	実務家教員および外部委員(教育委員会等、保育園長等)		
7. 概要	当講義では特別支援教育コーディネーターに欠かすことのできない「リスクマネジメント」、「相談援助」について学修する。また、社会的な問題である「子供の貧困」、「ハラスメント」についても学修し、どのような支援が子どもに必要なか等のニーズ把握を行い、客観的なアセスメント(生活課題の分析・実態把握)を行うための「リスクマネジメント」、「相談援助」について基礎から学びなおす。		
8. 学習目標	1. コーディネーターに必要な、リスクマネジメントや相談援助に関する基礎知識を修得する。 2. 関係機関と連携するための実践ノウハウを修得し、当講義において設定する行政および施設関係者との座談会等を通じて、地域ネットワークを構築する。 3. 2のネットワークを生かして、地域における中核的コーディネーターとして支援方法が提案できるようになる。		
9. 授業展開及び 授業内容	1 ハラスメント①(90 分)		
	2 ハラスメント②(90 分)		
	3 子どもの貧困(90 分)		
	4 リスクマネジメント(90 分)		
	5 外部機関との連携①(座談会)(120 分)		
	6 相談援助①(90 分)		
	7 相談援助②(90 分)		
	8 児童虐待と地域連携(120 分)		
	9 外部機関との連携②(座談会)(120 分)		
	【注意事項】 ※講義の開講順と担当教員は変更になる場合があります。 ※原則、土曜日の午前中に開講します(年間 6 回) ※変更が生じた場合は、速やかにお知らせします。		

RST-004(必修)

授 業 概 要

1.科目名	特別支援教育特論		
2.時間数	30 時間	時期	春学期 水曜
3.必修・選択区分	必修		
4.授業形態	講義		
5.参考書	特定の教科書は用いません。独自に作成した資料や参考資料を授業の度ごとに配布します。		
6.担当者	人間行動学研究科 非常勤講師 花熊暁		
7.概要	我が国ではいま、誰もが相互に人格と個性を尊重しあい、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である「共生社会」の形成が国家的な目標とされています。そうした社会を形成していくためには、学校教育においてインクルーシブ教育システムを構築することが重要であり、そのためには特別支援教育を着実に進めていく必要があります。本授業ではまず、障がいの捉え方の歴史的変遷と現在の障がいの捉え方の理解をもとに、特別支援教育が求められた背景と「特殊教育」から「特別支援教育」への移行過程、特別支援教育の進展過程について学びます。次に、インクルーシブ教育システムで求められている基礎的環境整備、合理的配慮を実現するための特別支援教育の実際(学校における支援のシステムと内容)について学んでいきます。		
8.学習目標	(1) 障がいの捉え方の歴史的変遷と現在の障がいの捉え方(ICF,2002)を述べることができる。 (2) 特別支援教育が求められた背景を説明できる。 (3) インクルーシブ教育システムの理念と基礎的環境整備、合理的配慮について説明できる。 (4) 特別支援教育の最新の動向について説明できる。 (5) 特別支援教育の対象児の状態像と支援が必要な領域を述べることができる。 (6) 学校における特別支援教育の体制づくりの内容と在り方を述べることができる。 (7) 長期的な観点に立った支援と移行支援の必要性について説明できる。		
9.授業展開 及び 授業内容/ アサイン メント (宿題等)	1.◇障がい支援の動向 ・講義 ①「障害」の捉え方の歴史的変遷 ②いま、障がい支援に求められること ・討論 WHO の国際障害分類(ICIDH)から国際生活機能分類(ICF)への変遷はなぜ生じたのか?		
	2.◇学校教育の今日的課題 ・講義 ①特別支援教育とは ②特別支援教育が求められる背景		
	3.◇「特殊教育」から「特別支援教育」へ ・講義 特別支援教育の歴史		
	4.◇特別支援教育の理念とシステム ・講義 ①特別支援教育の理念と意義 ②特別支援教育のシステムの全体像 ・討論 特別支援教育で何が変わったのか		
	5.◇個に応じた支援の展開 その1・講義 ①学校における特別な教育ニーズの実態把握 ②個に応じた支援を必要とする子どものアセスメント		
	6.◇個に応じた支援の展開 その2 ・講義 個別の指導計画の作成(1)		
	7.◇個に応じた支援の展開 その3 ・講義 個別の指導計画の作成(2)		
	8.◇個に応じた支援の展開 その4 ・講義 個別の教育支援計画の作成・討論 個別の教育支援計画がなぜ必要なのか		
	9.◇個に応じた支援の展開 その5・講義 移行支援と就労支援:米国における取組の紹介・討論 移行支援と就労支援はなぜ必要なのか		
	10.◇個に応じた支援の展開 その6 ・講義 移行支援と就労支援:キャリア教育の必要性		
	11.◇個に応じた支援の展開 その7 講義 キャリア教育の実際		
	12.◇各年齢段階における特別支援教育 その1 ・講義 幼児期の取り組み		
	13.◇各年齢段階における特別支援教育 その2 ・講義 小学校期の取り組み		
	14.◇各年齢段階における特別支援教育 その3 ・講義 中学・高校期の取り組み		
	15.◇まとめ:特別支援教育の今後の課題 ★最終試験		
10. 成績評価	① 授業内の討論 20% ② 内容理解確認のための小テスト 30% ③ 小レポート 20% ④ 最終試験 30%		
11. コメント	特別支援教育の理念、システム、具体的内容を理解する上での基礎となる授業内容なので、特別支援教育に関する基本概念をしっかり把握してください。		

授 業 概 要

1.科目名	発達障害教育特別演習Ⅰ		
2.時間数	30 時間	時期	春学期 火曜
3.必修・選択区分	必修		
4.授業形態	講義・演習		
5.参考書			
6.担当者	人間行動学研究科 教授 中尾繁樹		
7.概要	具体的なテーマに沿った実践研究を行うことにより、発達障害に関する分野での実践・研究に必要となる現場体験及び文献講読による実践分析力と研究方法のと習得をめざす。発達障害児における現場での課題と心理・教育学的に検討するための具体的方法論を知り、また最新の研究動向を知る中で、現在の発達障害教育の教育課題に対するエビデンスの収集と問題のたて方と研究方法を学ぶ。		
8.学習目標	① 発達障害教育学の基本概念と研究方法論を知る。 ② 研究課題に沿った、エビデンスと実践での情報収集及び分析を行う。 ③ 修士論文に向けた研究課題設定を行うことができる。 2. ベンチマーク ① 専門分野における専門知識および研究法を理解することができる。 ② 専門分野における主要な分析方法を理解することができる。 ③ 研究課題を企画し遂行することができる。		
9.授業展開 及び 授業内容/ アサイン メント (宿題等)	1・オリエンテーション・授業の進め方	★次回までに、自身の研究主題にあった発達障害に関する海外文献を3つ検索し、日本の論文と比較するための準備。	
	2・実践体験と分析(1)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表①	★実践体験及び調査のためのフィールドを確保し、課題の分析を行う。	
	3・実践体験と分析(2)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表②	★実践体験及び調査のためのフィールドを確保し、課題の分析を行う。	
	4・実践体験と分析(3)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表③	★実践体験及び調査のためのフィールドを確保し、課題の分析を行う。	
	5・実践体験と分析(4)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表④	★実践体験及び調査結果等の報告のまとめを次回までに行う。	
	6・実践体験と分析(5)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表⑤	★実践体験及び調査結果等の報告のまとめを次回までに行う	
	7・実践体験と分析(6)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表⑥	★実践体験及び調査結果等の中間報告のまとめを次回までにPPTで準備する	
	8・実践体験と分析(7)・中間報告 ○中間報告会と議論、討論、課題と問題解決	★実践体験及び調査結果等の中間報告の課題を受けて準備検討する。	
	9・実践体験と分析(8)・特別支援教育現場での実践報告 ○海外論文発表⑦	★実践体験及び調査結果等の中間報告の課題を受けて準備検討する。	
	10・実践体験と分析(9)・特別支援教育現場での実践報告 ○海外論文発表⑧	★実践体験及び調査結果等の中間報告の課題を受けて準備検討する。	
	11・実践体験と分析(10)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表⑨	★実践体験及び調査結果等の中間報告の課題を受けて準備検討する。	
	12・実践体験と分析(11)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表⑩	★実践体験及び調査結果等の最終報告に向けて準備検討する。	
	13・個人の発表と討議(12)・分析結果のまとめ	★実践体験及び調査結果等の最終報告に向けて準備検討する。	
	14・個人の発表と討議(13)・分析結果のまとめ	★実践体験及び調査結果等の最終報告に向けて準備検討する。	
	15・個人の発表と討議(14)・最終報告		
10. 成績評価	実践での分析結果の発表：50% 最終レポート：50%		

授 業 概 要

1.科目名	特別支援教育実践研究		
2.時間数	30 時間	時期	秋学期 木曜
3.必修・選択区分	必修		
4.授業形態	講義・演習		
5.参考書			
6.担当者	人間行動学研究科 教授 中尾繁樹		
7.概要	具体的なテーマに沿った実践研究を行うことにより、特別支援教育学の分野での実践・研究に必要なとなる現場での実践分析力と研究方法の習得をめざす。 特別支援教育における現場での課題と心理・教育学的に検討するための具体的方法論を知り、また最新の研究動向を知る中で、現在の特別支援教育の教育課題に対するエビデンスの収集と問題のたて方と研究方法を学ぶ。		
8.学習目標	1. 学習目標 ① 特別支援教育学の基本概念と研究方法論を知る。 ② 研究課題に沿った、エビデンスと実践での情報収集及び分析を行う。 ③ 修士論文に向けた研究課題設定を行うことができる。 2. ベンチマーク ① 専門分野における専門知識および研究法を理解することができる。 ② 専門分野における主要な分析方法を理解することができる。 ③ 研究課題を企画し遂行することができる。		
9.授業展開 及び 授業内容/ アサイン メント (宿題等)	1・オリエンテーション・授業の進め方	★自身の研究テーマに沿った実践現場の確保と研究目的の整理	
	2・実践体験と分析(1)・特別支援教育現場での実践報告と検討①	★自身の研究テーマに沿った実践現場の確保と研究目的の整理	
	3・実践体験と分析(2)・特別支援教育現場での実践報告と検討②	★自身の研究テーマに沿った実践現場の確保と研究目的の整理	
	4・実践体験と分析(3)・特別支援教育現場での実践報告と検討③	★自身の研究テーマに沿った実践現場の確保と研究目的の整理	
	5・実践体験と分析(4)・特別支援教育現場での実践報告と検討④	★自身の研究テーマに沿った実践現場の確保と研究目的の整理	
	6・実践体験と分析(5)・特別支援教育現場での実践報告と検討⑤	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調査実践開始①	
	7・実践体験と分析(6)・特別支援教育現場での実践報告と検討⑥	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調査実践開始②と中間報告に向けたまとめ	
	8・実践体験と分析(7)・特別支援教育現場での実践 中間報告	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調査実践開始③。	
	9・実践体験と分析(8)・特別支援教育現場での実践報告と検討⑦	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調査結果分析①	
	10・実践体験と分析(9)・特別支援教育現場での実践報告と検討⑧	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調査結果分析②	
	11・実践体験と分析(10)・特別支援教育現場での実践報告と検討⑨	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調査結果分析③	
	12・実践体験と分析(11)・特別支援教育現場での実践報告と検討⑩	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調査結果分析④	
	13・個人の発表と討議(12)	・分析結果のまとめ	
	14・個人の発表と討議(13)	・分析結果のまとめ	
	15・個人の発表と討議(14)・最終報告		
10. 成績評価	実践での分析結果の発表:20% 中間レポート:30% 最終レポート:50%		

授 業 概 要

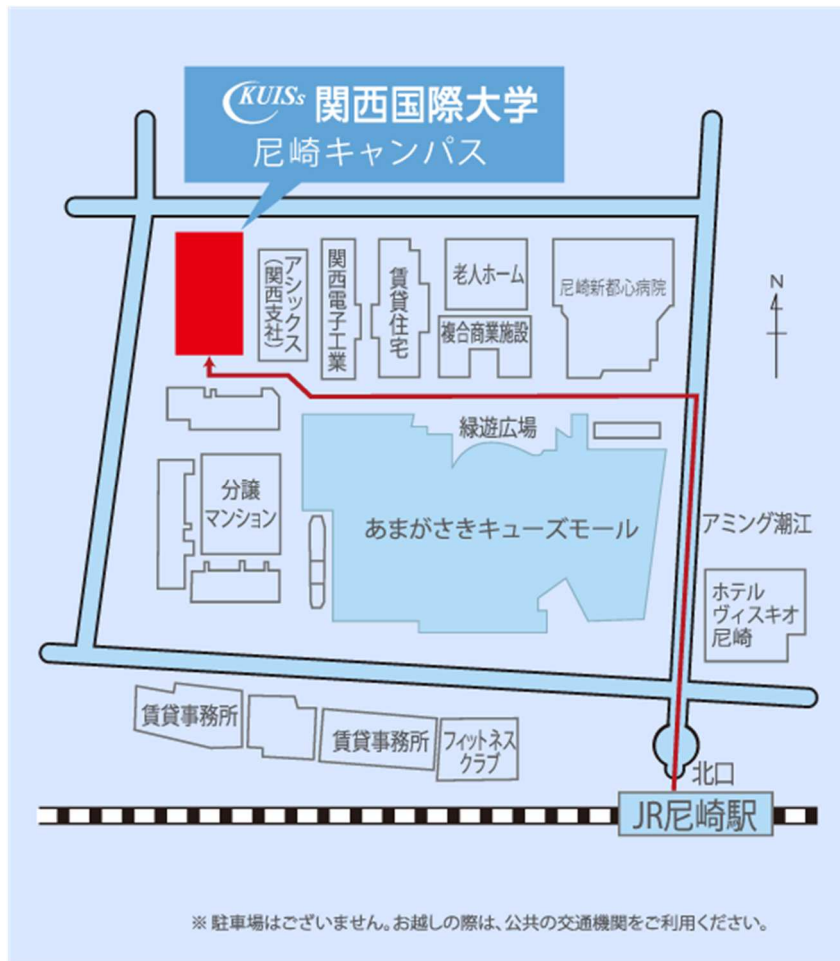
1.科目名	発達障害教育特論		
2.時間数	30 時間	時期	秋学期 木曜
3.必修・選択区分	選択		
4.授業形態	講義・演習		
5.参考書	特定の教科書は用いません。独自に作成した資料や参考資料を授業の度ごとに配布します。		
6.担当者	人間行動学研究科 非常勤講師 花熊暁		
7.概要	本授業では、発達障害の子どもたちの言語・コミュニケーション支援(「聞く・話す」の領域の支援)について学びます。発達障害の子どもたちにとって、他者とコミュニケーションする力を身につけていくことは、重要な発達課題の1つです。定型発達児と同様に、発達障害の子どもたちも、他者と楽しくコミュニケーションしたい、他者から仲間として認められたいという気持ちを持っているのですが、コミュニケーションのしかたが分かっていなかったり、他者の気持ちや考えの読み取りがうまくできなかつたりするために、コミュニケーションがうまくできず、学校生活や日常生活で様々な困難やトラブルを抱えてしまいます。 本授業では、言語・コミュニケーションの発達とその困難を理解するために必要な音声言語学等の基礎知識と、LD、ADHD、ASD等の「発達障害」に見られる「聞く・話す」の困難の具体像を理解し、その理解に基づいて、学校場面や日常生活場面における「聞く・話す」の問題の把握と分析の方法、支援の観点と方法、支援の実際について、事例等を挙げながら具体的に学びます。		
8.学習目標	① 言語・コミュニケーションの発達とその困難の理解に必要な基本用語を説明できる。 ② 「聞く・話す」のアセスメント方法を具体的に挙げるができる。 ③ 発達障害の子どもたちに見られる「聞く・話す」領域の困難の具体像を説明できる。 ④ つまずきの原因と支援の方法・内容を関連づけて述べるができる		
9.授業展開 及び 授業内容/ アサイン メント (宿題等)	1. 言語学・言語病理学の基礎知識		
	2. 子どものことばの発達の道筋		
	3. 生育歴のみかた(その1)		
	4. 生育歴のみかた(その2)		
	5. 「聞く・話す」のつまずきとアセスメント(その1)		
	6. 「聞く・話す」のつまずきとアセスメント(その2)		
	7. 言語・コミュニケーション支援の観点と方法		
	8. ASD児に見られる特性と困難(その1)		
	9. ASD児に見られる特性と困難(その2)		
	10. ASD児に見られる特性と困難(その3)		
	11. 事例による検討(1)－1		
	12. 事例による検討(1)－2		
	13. 事例による検討(2)－1		
	14. 事例による検討(2)－2		
	15. 授業のまとめと最終試験		
10. 成績評価	① 授業内での討論 30% ② 小レポート 30% ③ 最終試験 40%		

授 業 概 要

1.科目名	学級経営特論		
2.時間数	30 時間	時期	春学期 火曜
3.必修・選択区分	選択		
4.授業形態	講義と演習		
5.参考書	特別支援教育士認定協会編(2023)特別支援教育の理論と実践 第4版、金剛出版 第3巻 特別支援教育士の役割・実習		
6.担当者	人間行動学研究科 教授 中尾繁樹		
7.概要	様々な視点に基づく学級(ホームルーム)経営について多面的に考察することを通して、現場における実践力の向上を図る。 ○議論と対話、思索を通して、柔軟な思考力と多角的な視座を形成するとともに、リーダーシップの重要な要素であるコミュニケーション能力の向上を図る。 ○学級経営に係る諸課題とその克服のための方策について考究する。 学校は社会的な教育機関であるという特性のため、その社会の変化の影響を少なからず受ける。そしてそこから生じる課題とそれに対応するための柔軟な対応力が必要とされる。現在学校を取り巻く社会は、まさに大変革の時代と呼ばれている。ビッグデータを活用した AI による新たな社会の構築は、どのような社会構造の変化をもたらすのか、また新型コロナウイルスの影響で世界の人の流れが今は停滞しているように見えるが、グローバル化という大きな流れが一層進展していくだろうと予想される中で、未来の世界を生きる子どもたちに今どのような力をつける必要があるのかなど、学校教育の課題は益々多様化している。学級の中で子どもたちをどう育て、様々な課題をどう解決していくかを学級経営を通して検証する。		
8.学習目標	○キャリア教育の視点に立った学級(ホームルーム)経営のあり方を自ら設定し、個々の生徒の実態に応じた適切な対応が考察・実践できるようになること。 ○的確な現状把握に基づいて、進捗管理と危機管理を実践するための多面的な考察ができるようになること。 ○場面や場合に応じたリーダーシップが発揮できるようになること。		
9.授業展開 及び 授業内容/ アサイン メント (宿題等)	1. オリエンテーション 学級経営とは何か(文科省方針を踏まえて)	毎回の授業の感想と考察を提出する。 レポート課題は 授業中に指示する。	
	2. 学級におけるアセスメント①		
	3. 学級におけるアセスメント②		
	4. 学校園における学級経営の具体的方策① 学校・園における支援体制Ⅰ:通常の学級における支援 ①基礎的環境整備 ②合理的配慮		
	5. 学校園における学級経営の具体的方策② 学校・園における支援体制Ⅰ:通常の学級における支援 ①学習指導要領 ②教育課程 ③学級経営 AI や IT 技術に関する STEM(科学・技術・工学・数学)教育の世界と日本の現状について		
	6. 「いじめ」「不登校」についての理解と対応① ・講義:「いじめ」「不登校」の現状と理解求められる教師像		
	7. 「いじめ」についての理解と対応② ・講義:「いじめ」の具体的対応学校としての教育力向上を図る学校組織のあり方		
	8. 「不登校」についての理解と対応② ・講義:「不登校」の具体的対応		
	9. 学校・園における支援体制Ⅱ:通級による指導 ①通級による指導の制度の変遷 ②自立活動 ③自校通級・他校通級・巡回による指導		
	10. 学校・園における支援体制Ⅱ:通級による指導 ①通常の学級との連携 ②専門機関との連携 AI や IT 技術に関する STEM(科学・技術・工学・数学)教育の世界と日本の現状について		
	11. 生徒指導上の諸問題の理解と対応① ・講義:生徒指導上の諸問題と子どもたちの発達特性、困り感		
	12. 生徒指導上の諸問題の理解と対応② ・討議:発達特性に応じた生徒指導とは?		
	13. 保護者対応		
	14. 学校・園における支援体制Ⅲ:コーディネーターの役割とリソースの活用 ①チーム学校 ②特別支援教育コーディネーター ③校内委員会		
	15. 学校・園における支援体制Ⅲ:コーディネーターの役割とリソースの活用 ①特別支援教育支援員 ②地域リソースの活用		
10. 成績評価	授業内の対話・交流・議論・発表等への参加姿勢 30% 課題の発見と解決に向けた幅広い行動力 30% 課題に対する読解力・思考力・判断力・表現力等の言語能力 40%		

【開講場所・アクセス】

兵庫県尼崎市潮江 1 丁目 3 番 23 号 (JR尼崎駅より北西へ徒歩 5 分)



お問合せ・お申込み

関西国際大学 尼崎キャンパス
履修証明プログラム担当係
〒661-0976 兵庫県尼崎市潮江 1-3-23
TEL: 06-6496-4357 (直通)
E-mail: gakuji@kuins.ac.jp
U R L: <http://www.kuins.ac.jp/>